

## グローバル人材育成プログラム に参加して

宮崎 太起  
Taiki MIYAZAKI  
電子情報学科 3年

### 1. はじめに

僕はグローバル人材育成プログラムとして8月16日から9月2日にかけて、アメリカのカリフォルニア州サンフランシスコとサンノゼに約2週間滞在した。内容は、企業訪問、見学ツアー、講演を聴き、ホームステイしながらインターンである。

### 2. 参加した理由

参加した理由は海外で働いてみたい、シリコンバレーでの働き方を見たい、ホームステイをしてみたい、などだが、そもそものきっかけは自分を変えたいと思ったからである。当初の僕は、英語への苦手意識や、ホームステイへの不安、長期休暇に行くとしたら休みが減ってしまう、そういった理由で全てに行動を移していない状態だった。僕がグローバル人材育成プログラムの募集を見つけたのは自分の全く行動しない状態に変わらないといけないと思い始めた時だった。自分のしてみたいという内容があり、参加したらきっと良い経験になると思った。そしてこれが最後のチャンスだと思ったので参加を決めた。

### 3. 企業訪問

企業訪問では AUTO DESK, Fitbit, Oracle を訪問した。アメリカでは出勤時刻や終業時刻に決まった形がなく自由であるということ。失敗にリスクが少なくたくさん挑戦できる機会が多い事。訪問した際聞いたお話を通して働き方や考え方が日本と違うなと感じた。

### 4. 見学ツアー

見学ツアーでは、スタンフォード大学、Intel 本社、コンピュータ歴史博物館を見学した。

スタンフォード大学では実際に通っている大学生が大学を案内してくれた。とても大きく綺麗な大学で、少し憧れを感じた。スタンフォード大学はとても忙しく、たくさんの勉強をしていると聞いて、日本ではたくさん勉強しないといけない大学は聞いたことがないので、勉強量から日本との差があるのだなと感じた。

D スクールではイノベーションアイデアを生み出すために、椅子が高くなっていた。これは、人間がアイデアを出しやすい状況にするためという合理的判断であり、昔からの慣習にとらわれず常に最先端な手段を取り入れているところにとっても感銘を受けた。このように常に新しい環境にアップデートされている事は、在学している人はその新しい環境に常に適応できる能力が必要だと思うし、その能力がグローバル人材に必要なのではないかと感じた瞬間だった。

Intel 本社やコンピュータ歴史博物館では、それぞれの歴史を学ぶことができた。昔の技術では、サイズがとても大きかったり、ワイヤーを使っていたりと現代の技術に発展するまでにたくさんの技術革新があったことを知った。それぞれの歴史を学ぶ上で、技術の発展には人間同士のやり取りも、とても大きく関わっていることを知った。特に印象的だったのは、歴史の中で、競争に負けてしまったメーカーがあり、その理由が、ある技術者に部署移動を言い渡した結果、その技術者が辞めて、他のメーカーで新しい技術を開発して、成功してしまうといったことである。コンピュータ歴史博物館では、そういったメーカーの競争において、勝ったメーカーと負けたメーカーをしっかりと事実ベースで書かれていて、おもしろいと感じたし、とても勉強になった。

## 5. 講演

Amil Khanzadaさんと山田理さんの話を聞いた。二人はご自分の体験を通して感じたことを話されていて話にはとても情熱を感じた。

Amilさんの話ではアメリカで働いていると精神的に辛くなる人がいるそうで、その際日本の精神が助けになったと話されていた。

山田理さんは日本の現状は悪くなる一方でそれに気づいていない人がいる。気づくためには常に行動することが大事だと話されていた。

僕は講演を通してもっと日本の良さに気づく必要があると思った。日本では働き方などでアメリカと比較されることが多いが、日本にも日本の良さがあるという話を聞いて、自分でたくさんの経験を通してそういう事に気づく必要があると感じた。そのためにもたくさん行動していかなければならないと思った。

## 6. ホームステイ

ホストファミリーはロドリゲスさん。とても話好きな方でたくさんお話をしてくださった。他にも自分も含めて4人の留学生が居ていつも夕食後はその日の出来事や、ロドリゲスさんの体験談などとても賑やかな環境で楽しく時間を過ごした。

## 7. インターンシップ

インターン先は Susumu International U. S. A という抵抗部品を販売している日系企業。努めている人全員は全員日本人。親切な方達ばかりで、とても働きやすい環境だった。しかし、インターン初日はとても不安だった。なぜなら住むところ、通う場所の環境が急に変わったからである。環境が変わって不

安に感じている状況で、慣れない仕事をする中で辛い思いをするのではないかと不安が増えていた。業務内容はマーケティング調査として、他社のメーカーと Susumu の抵抗部品の価格を調査、市場を考察しながら最終的に Susumu が取るべき戦略を提案としてプレゼンするというものである。初日が終わって、環境の変化からくる不安を払拭するために、毎日1日の終わりにその日の反省と改善をし、次の日に生かす。ということをすることにした。その結果、業務中の作業では1つ1つ目標をもって作業をし、反省点を明確にしたことが日々の充実感を生み出し、3日目から既に不安が一切なくなっていた。人生の中で苦手なこともこれから直面すると思うが、目標を持つなどして向き合うことで苦手ではなくなるのではないかと思った。

実習の最後には一緒に働いていた皆さんの前でプレゼンテーションをした。分かりやすく説明しないといけない場面で言葉が変になってしまつてとても悔しい思いをした。自分の言葉で説明する事がとても難しいと感じた。

## 8. おわりに

今回の貴重な学びの機会を与えてくれた両親やたくさんの方々本当に心から感謝する。僕は、例えば当たり前が実は当たり前でないことに気づいた経験から当たり前になっている現状に感謝する。と言った風に、これから自分の行動を改善していくことが大事だと思っている。住むところ、通うところまで環境が変わったことでたくさんの気づきがあり、ここに書いた事はその一部に過ぎない。気づいたことから1個でも多く生かすためにも、毎日自分の行動を反省と改善していく事で今回の経験の意味と感謝を表したいと思う。